

Ⅲ 知的障害特別支援学校高等部普通科の職業教育の充実事業

知的障害特別支援学校高等部普通科の職業教育の充実事業

<委員>

中坪 晃一	植草学園短期大学 学長	学識経験者
箕輪 優子	横河電機 経営監査本部CSR課	企業関係者
石川 誠	いなげやウィング管理運営部長	企業関係者
鈴木 誠治	都立羽村特別支援学校 指導教諭	専門委員
山口真佐子	都立府中けやきの森学園 校長	
平塚 雄二	都立練馬特別支援学校 校長	
茂木 裕之	都立足立特別支援学校 校長	
吉田 真理子	都立八王子特別支援学校 校長	
土屋 武	都立練馬特別支援学校 主幹教諭	
須長 輝夫	都立府中けやきの森学園 主任教諭	
田島 昭美	都立八王子特別支援学校 主任教諭	
古山 武	都立足立特別支援学校 教諭	

Ⅲ 知的障害特別支援学校高等部普通科の 職業教育の充実事業報告

1 都立知的障害特別支援学校の現状と課題

＜平成25年度指導部調査より＞

■ 対象

知的障害特別支援学校高等部 中度（愛の手帳3度）の生徒が所属する作業班

■ 総数

24校 124作業班

現状

（1）工程の分析

- ・工程を細分化し、生徒に示す手順書を作成している作業班は半数程度である。

（2）補助具の開発

- ・作業の数量等が分かる補助具、直線を引く・押印の位置を決めるなど作業の正確性を促す補助具は、多くの作業班で使用されている。

（3）環境の整理

- ・物品の整理整頓の意識は高まっている。

（4）教員の関わり方

- ・生徒への指導は、担当する教員の指導力に大きく左右され、継続していない。

課題

（1）工程分析

- ・工程の細分化に加え、生徒一人一人の障害の状況に応じた工程を工夫していく必要がある。

（2）補助具の開発

- ・工夫された補助具等の情報を、同様の作業種を実施している学校間でも共有していく必要がある。
- ・教員が補助をするのではなく、補助具を工夫することで生徒が一人で行えるようになる場面を増やす必要がある。

（3）環境の整理

- ・生徒一人一人が準備や片付けを行いやすく、作業に集中できる環境作りを行う必要がある。

（4）教員の関わり方

- ・作業班のリーダーは、作業活動の計画・推進者に留まらず、生徒への指導方法を教員に助言する必要がある。

2 平成26年度の実施内容

方法

研究指定校4校において、高等部（中・重度）における「作業学習」の授業研究を行った。

授業改善に当たっては、3つの工夫に教員の支援（働きかけ）や立ち位置を要件に加えた。

- 工程の分析
- 補助具の開発
- 環境の整理
- 教員の関わり方



本実践研究では、企業関係者や学識経験者等、外部の専門家の指導・助言を得ながら授業改善を進めました。実践事例にある「専門家」とは、今回の実践研究にご協力いただいた外部の専門家のことです。

各作業班共通の課題

生徒が「やりにくい」と感じている場面の例	
用具の準備など、作業の準備に時間がかかる。	作業に集中できない
次に何を行うのかが理解出来ず、教員が次の仕事（作業）を指示するまで待っている。	教員の口頭での指示が多い
正確な手順がわからないため、間違えてしまい、その都度口頭で指示が必要である。	
仕上がりが判断できないため、その都度近くの教員に確認する。	
教員によって指示が様々であり、何度も確認が必要である。	教員の指示が様々である
安全への配慮のため、教員が傍について一緒に行っている。	一人で行うことができない



一人でできた！という自信をつける （客観的な変化）

- ・一人でできる工程の増加
- ・作業量の増加
- ・品質の向上
- ・集中できる時間の増加 など